

【表紙】

【提出書類】 有価証券届出書の訂正届出書

【提出先】 関東財務局長 殿

【提出日】 平成30年4月11日提出

【発行者名】 アムンディ・ジャパン株式会社

【代表者の役職氏名】 代表取締役 ローラン・ベルティオ

【本店の所在の場所】 東京都千代田区内幸町一丁目2番2号

【事務連絡者氏名】 甕 隆敏

【電話番号】 03-3593-5957

【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託  
受益証券に係るファンドの名称】 りそな・日経225オープン

【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託  
受益証券の金額】 継続募集額：上限 3,000億円

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

## 1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

本日、半期報告書を提出いたしましたので、平成29年10月11日付をもって提出した有価証券届出書(以下、原届出書といいます。)の関係情報を新たな情報に訂正するため、また、記載事項のうち訂正すべき事項がありますのでこれを訂正するため、本訂正届出書を提出するものです。

## 2【訂正の内容】

原届出書の該当情報を以下の内容に訂正します。下線部\_\_\_\_\_は訂正部分を示します。

## 第二部【ファンド情報】

### 第1【ファンドの状況】

#### 1【ファンドの性格】

##### (3)【ファンドの仕組み】

##### アムンディ概要

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 1 ファンドの性格 (3)ファンドの仕組み  
アムンディ概要」につきましては全文削除されます。

## 3【投資リスク】

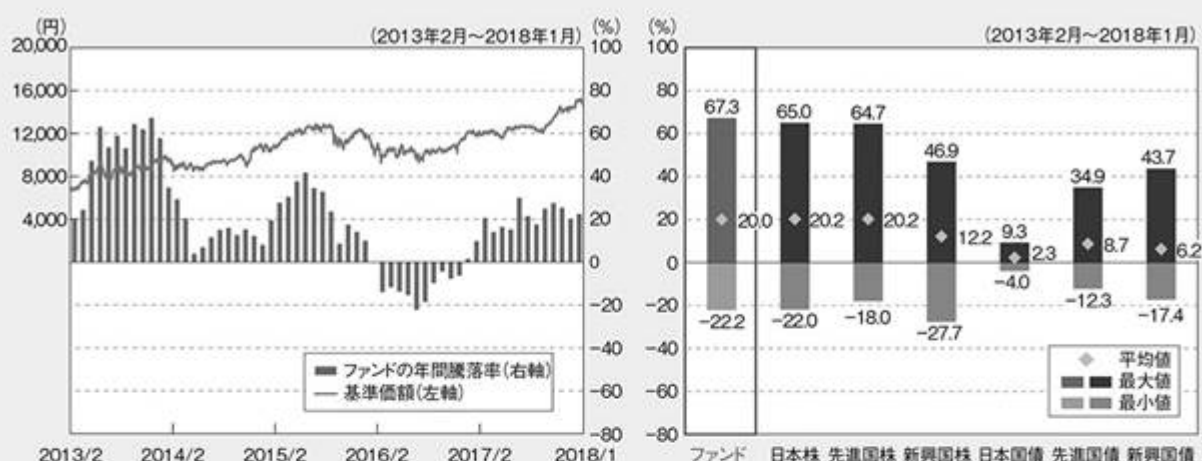
(参考情報)

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 3 投資リスク (参考情報)」につきましては次の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

## (参考情報)

## ①ファンドの年間騰落率および基準価額の推移 ②ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



\*①のグラフは年間騰落率 (各月末における直近1年間の騰落率) および基準価額の推移を表示したものです。

\*②のグラフは2013年2月から2018年1月までの5年間の年間騰落率 (各月末における直近1年間の騰落率) の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

\*②のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものであり、全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

## ○各資産クラスの指数について

## 日本株 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) とは、東京証券取引所第一部に上場している全銘柄を対象として算出した指数で、TOPIXの指数値およびTOPIXの高標は東京証券取引所の知的財産であり、同指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利およびTOPIXの高標に関するすべての権利は、東京証券取引所が有します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの指数値の算出もしくは公表の停止またはTOPIXの高標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有します。

## 先進国株 MSCIコクサイ・インデックス (税引後配当込み、円ベース)

MSCIコクサイ・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有します。

## 新興国株 MSCIエマージング・マーケット・インデックス (税引後配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有します。

## 日本国債 NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債とは、野村証券株式会社が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。同指数の知的財産権とその他一切の権利は野村証券株式会社に帰属します。

## 先進国債 FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) とは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

## 新興国債 JPモルガンGBI-EM グローバル・ディバースィファイド (円ベース)

JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイドとは、J.P.Morgan Securities LLCが算出し公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債で構成されている指数です。同指数の著作権はJ.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

## 5【運用状況】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 5 運用状況」につきましては以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

以下は平成30年1月末日現在の運用状況です。

また、投資比率は、小数点以下第3位を切捨てて表示しているため、当該比率の合計と合計欄の比率が一致しない場合があります。

### (1)【投資状況】

信託財産の構成

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	26,122,481,201	99.97
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		5,988,196	0.02
合計（純資産総額）		26,128,469,397	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価合計比率をいいます。

<参考情報>

「アムンディ・日経225オープンマザーファンド」

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
株式	日本	36,104,935,040	96.31
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		1,382,653,194	3.68
合計（純資産総額）		37,487,588,234	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価合計比率をいいます。

その他の資産の投資状況

種類	国/地域	取引所	資産名	買建/売建	数量	通貨	帳簿価額 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
株価指数先物取引	日本	大阪	日経平均株価指数先物	買建	59	円	1,385,434,016	1,362,310,000	3.63

（注1）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の評価額比率をいいます。

（注2）評価にあたっては、計算日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。

### (2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

順位	国/地域	種類	銘柄名	口数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	親投資信託 受益証券	アムンディ・日経225オープンマザーファンド	15,350,814,598	1.4944	22,940,601,404	1.7017	26,122,481,201	99.97

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価額比率をいいます。

種類別投資比率

国内/外国	種類	投資比率(%)
国内	親投資信託受益証券	99.97
	合計	99.97

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該種類の評価額比率をいいます。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

<参考情報>

「アムンディ・日経225オープンマザーファンド」

投資有価証券の主要銘柄（評価額上位30銘柄）

順位	国/地域	種類	銘柄名	業種	株式数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	株式	ファーストリテイリング	小売業	58,000	37,397.41	2,169,050,240	48,690.00	2,824,020,000	7.53
2	日本	株式	ファナック	電気機器	58,000	22,964.61	1,331,947,720	29,475.00	1,709,550,000	4.56
3	日本	株式	ソフトバンクグループ	情報・通信業	174,000	9,077.20	1,579,434,120	8,980.00	1,562,520,000	4.16
4	日本	株式	東京エレクトロン	電気機器	58,000	16,168.96	937,800,240	20,460.00	1,186,680,000	3.16
5	日本	株式	KDDI	情報・通信業	348,000	2,927.31	1,018,704,240	2,753.00	958,044,000	2.55
6	日本	株式	京セラ	電気機器	116,000	6,634.06	769,551,040	7,251.00	841,116,000	2.24
7	日本	株式	ダイキン工業	機械	58,000	11,836.99	686,545,980	13,095.00	759,510,000	2.02
8	日本	株式	信越化学工業	化学	58,000	10,214.14	592,420,120	12,410.00	719,780,000	1.92
9	日本	株式	テルモ	精密機器	116,000	4,460.39	517,405,560	5,340.00	619,440,000	1.65
10	日本	株式	TDK	電気機器	58,000	7,765.22	450,383,300	10,050.00	582,900,000	1.55
11	日本	株式	日東電工	化学	58,000	9,826.49	569,936,760	9,974.00	578,492,000	1.54
12	日本	株式	セコム	サービス業	58,000	8,520.99	494,217,480	8,342.00	483,836,000	1.29
13	日本	株式	リクルートホールディングス	サービス業	174,000	2,492.98	433,780,020	2,659.00	462,666,000	1.23
14	日本	株式	本田技研工業	輸送用機器	116,000	3,171.70	367,918,240	3,826.00	443,816,000	1.18
15	日本	株式	花王	化学	58,000	6,764.52	392,342,200	7,563.00	438,654,000	1.17
16	日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	58,000	6,365.99	369,227,960	7,480.00	433,840,000	1.15
17	日本	株式	ユニー・ファミリーマートホールディングス	小売業	58,000	6,449.66	374,080,640	7,300.00	423,400,000	1.12
18	日本	株式	アステラス製薬	医薬品	290,000	1,389.99	403,099,200	1,440.00	417,600,000	1.11
19	日本	株式	デンソー	輸送用機器	58,000	5,087.88	295,097,600	6,823.00	395,734,000	1.05
20	日本	株式	キヤノン	電気機器	87,000	3,824.43	332,725,530	4,349.00	378,363,000	1.00
21	日本	株式	武田薬品工業	医薬品	58,000	5,794.40	336,098,520	6,415.00	372,070,000	0.99
22	日本	株式	エヌ・ティ・ティ・データ	情報・通信業	290,000	1,245.43	361,174,700	1,283.00	372,070,000	0.99
23	日本	株式	コナミホールディングス	情報・通信業	58,000	6,117.50	354,815,180	6,240.00	361,920,000	0.96
24	日本	株式	エーザイ	医薬品	58,000	6,080.07	352,644,180	6,231.00	361,398,000	0.96
25	日本	株式	スズキ	輸送用機器	58,000	5,386.20	312,399,920	6,228.00	361,224,000	0.96
26	日本	株式	塩野義製薬	医薬品	58,000	5,986.15	347,196,700	6,037.00	350,146,000	0.93
27	日本	株式	トレンドマイクロ	情報・通信業	58,000	5,760.60	334,114,880	5,880.00	341,040,000	0.90
28	日本	株式	中外製薬	医薬品	58,000	4,502.13	261,123,780	5,770.00	334,660,000	0.89
29	日本	株式	安川電機	電気機器	58,000	2,796.07	162,172,240	5,620.00	325,960,000	0.86
30	日本	株式	資生堂	化学	58,000	4,082.12	236,762,980	5,601.00	324,858,000	0.86

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価額比率をいいます。

種類別及び業種別投資比率

国内/外国	種類	業種	投資比率(%)
国内	株式	水産・農林業	0.13
		鉱業	0.08
		建設業	2.73
		食料品	4.40
		繊維製品	0.28
		パルプ・紙	0.14
		化学	8.50
		医薬品	6.79
		石油・石炭製品	0.35
		ゴム製品	1.03
		ガラス・土石製品	1.59
		鉄鋼	0.18
		非鉄金属	1.42
		金属製品	0.31

	機械	5.46
	電気機器	19.53
	輸送用機器	6.18
	精密機器	2.75
	その他製品	1.04
	電気・ガス業	0.19
	陸運業	2.05
	海運業	0.14
	空運業	0.06
	倉庫・運輸関連業	0.22
	情報・通信業	9.89
	卸売業	2.20
	小売業	10.48
	銀行業	0.93
	証券、商品先物取引業	0.39
	保険業	0.89
	その他金融業	0.30
	不動産業	1.68
	サービス業	3.82
	合計	96.31

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該業種の評価額比率をいいます。

#### 投資不動産物件

該当事項はありません。

#### その他投資資産の主要なもの

種類	国/ 地域	取引所	資産名	買建/売建	数量	通貨	帳簿価額 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
株価指数先物取引	日本	大阪	日経平均株価指数先物	買建	59	円	1,385,434,016	1,362,310,000	3.63

（注1）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の評価額比率をいいます。

（注2）評価にあたっては、計算日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。

### （3）【運用実績】

#### 【純資産の推移】

平成30年1月末日及び同日前1年以内における各月末ならびに下記の計算期間末の純資産の推移は次の通りです。

期間	純資産総額 (分配落)(円)	純資産総額 (分配付)(円)	1口当たり 純資産額 (分配落)(円)	1口当たり 純資産額 (分配付)(円)
第9期計算期間末（平成20年 7月11日）	34,653,944,886	34,653,944,886	0.7509	0.7509
第10期計算期間末（平成21年 7月13日）	33,674,481,734	33,674,481,734	0.5266	0.5266
第11期計算期間末（平成22年 7月12日）	42,050,413,316	42,050,413,316	0.5594	0.5594
第12期計算期間末（平成23年 7月11日）	40,415,753,052	40,415,753,052	0.5966	0.5966
第13期計算期間末（平成24年 7月11日）	48,359,048,113	48,359,048,113	0.5315	0.5315
第14期計算期間末（平成25年 7月11日）	59,858,368,787	59,858,368,787	0.8788	0.8788

第15期計算期間末（平成26年 7月11日）	67,860,489,232	67,860,489,232	0.9270	0.9270
第16期計算期間末（平成27年 7月13日）	41,644,560,232	41,644,560,232	1.2379	1.2379
第17期計算期間末（平成28年 7月11日）	66,425,568,486	66,425,568,486	0.9786	0.9786
第18期計算期間末（平成29年 7月11日）	30,114,534,714	30,114,534,714	1.2715	1.2715
平成29年 1月末日	46,223,802,591	-	1.1919	-
2月末日	45,355,529,936	-	1.1970	-
3月末日	43,905,571,143	-	1.1913	-
4月末日	45,744,622,183	-	1.2087	-
5月末日	36,339,902,951	-	1.2368	-
6月末日	29,373,585,973	-	1.2615	-
7月末日	29,620,840,524	-	1.2539	-
8月末日	32,490,765,540	-	1.2365	-
9月末日	29,224,937,539	-	1.2881	-
10月末日	24,668,260,756	-	1.3920	-
11月末日	25,732,108,030	-	1.4367	-
12月末日	25,703,201,699	-	1.4403	-
平成30年 1月末日	26,128,469,397	-	1.4602	-

## 【分配の推移】

期間	1口当たり分配金（円）
第9期計算期間 自 平成19年 7月12日 至 平成20年 7月11日	0.0000
第10期計算期間 自 平成20年 7月12日 至 平成21年 7月13日	0.0000
第11期計算期間 自 平成21年 7月14日 至 平成22年 7月12日	0.0000
第12期計算期間 自 平成22年 7月13日 至 平成23年 7月11日	0.0000
第13期計算期間 自 平成23年 7月12日 至 平成24年 7月11日	0.0000
第14期計算期間 自 平成24年 7月12日 至 平成25年 7月11日	0.0000
第15期計算期間 自 平成25年 7月12日 至 平成26年 7月11日	0.0000
第16期計算期間 自 平成26年 7月12日 至 平成27年 7月13日	0.0000
第17期計算期間 自 平成27年 7月14日 至 平成28年 7月11日	0.0000

第18期計算期間	自 平成28年 7月12日 至 平成29年 7月11日	0.0000
----------	--------------------------------	--------

## 【収益率の推移】

期間	収益率(%)
第9期計算期間 自 平成19年 7月12日 至 平成20年 7月11日	27.2
第10期計算期間 自 平成20年 7月12日 至 平成21年 7月13日	29.9
第11期計算期間 自 平成21年 7月14日 至 平成22年 7月12日	6.2
第12期計算期間 自 平成22年 7月13日 至 平成23年 7月11日	6.6
第13期計算期間 自 平成23年 7月12日 至 平成24年 7月11日	10.9
第14期計算期間 自 平成24年 7月12日 至 平成25年 7月11日	65.3
第15期計算期間 自 平成25年 7月12日 至 平成26年 7月11日	5.5
第16期計算期間 自 平成26年 7月12日 至 平成27年 7月13日	33.5
第17期計算期間 自 平成27年 7月14日 至 平成28年 7月11日	20.9
第18期計算期間 自 平成28年 7月12日 至 平成29年 7月11日	29.9
第19期中間計算期間 自 平成29年 7月12日 至 平成30年 1月11日	17.9

(注) 収益率は以下の計算式により算出しております。

(当該計算期間末分配付基準価額 - 当該計算期間の直前の計算期間末分配落基準価額) ÷ (当該計算期間の直前の計算期間末分配落基準価額) × 100

なお、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位まで表示しております。

## (4) 【設定及び解約の実績】

期間	設定口数	解約口数	発行済口数
第9期計算期間 自 平成19年 7月12日 至 平成20年 7月11日	23,634,721,306	6,281,124,587	46,148,909,026
第10期計算期間 自 平成20年 7月12日 至 平成21年 7月13日	39,416,769,023	21,619,985,163	63,945,692,886
第11期計算期間 自 平成21年 7月14日 至 平成22年 7月12日	49,532,504,987	38,312,143,986	75,166,053,887
第12期計算期間 自 平成22年 7月13日 至 平成23年 7月11日	41,918,908,379	49,341,189,805	67,743,772,461



第13期計算期間	自 平成23年 7月12日 至 平成24年 7月11日	77,975,499,723	54,731,041,049	90,988,231,135
第14期計算期間	自 平成24年 7月12日 至 平成25年 7月11日	104,898,775,003	127,771,820,123	68,115,186,015
第15期計算期間	自 平成25年 7月12日 至 平成26年 7月11日	120,874,388,938	115,788,025,763	73,201,549,190
第16期計算期間	自 平成26年 7月12日 至 平成27年 7月13日	83,861,175,657	123,421,779,441	33,640,945,406
第17期計算期間	自 平成27年 7月14日 至 平成28年 7月11日	64,672,810,853	30,432,252,066	67,881,504,193
第18期計算期間	自 平成28年 7月12日 至 平成29年 7月11日	18,284,216,603	62,481,269,407	23,684,451,389
第19期中間計算期間	自 平成29年 7月12日 至 平成30年 1月11日	7,804,834,320	14,519,937,005	16,969,348,704

(注) 全て本邦内におけるものです。

(参考情報)

## 運用実績

2018年1月末日現在

## 基準価額・純資産の推移



基準価額	14,602円	純資産総額	261.3億円
------	---------	-------	---------

## 分配の推移

決算日	分配金(円)
14期(2013年7月11日)	0
15期(2014年7月11日)	0
16期(2015年7月13日)	0
17期(2016年7月11日)	0
18期(2017年7月11日)	0
設定来累計	0

※分配金は1万口当たり・税引前です。  
※直近5期分を表示しています。

## 主要な資産の状況

ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行っており、組入上位10銘柄および組入上位10業種はマザーファンドのポートフォリオの状況を記載しています。

## ■資産配分■

資産	比率(%)
株式	96.29
現金等	3.71
合計	100.00

※比率は純資産総額に対する実質投資割合です。  
※四捨五入の関係で合計が100.00%とならない場合があります。

## ■その他資産■

資産	比率(%)
先物	3.63

## ■組入上位10銘柄■

(アムンディ・日経225オープンマザーファンド)

	銘柄名	業種	比率(%)
1	ファーストリテイリング	小売業	7.53
2	ファナック	電気機器	4.56
3	ソフトバンクグループ	情報・通信業	4.17
4	東京エレクトロン	電気機器	3.17
5	KDDI	情報・通信業	2.56
6	京セラ	電気機器	2.24
7	ダイキン工業	機械	2.03
8	信越化学工業	化学	1.92
9	テルモ	精密機器	1.65
10	TDK	電気機器	1.55

※比率は、マザーファンドの純資産総額に対する評価額比です。

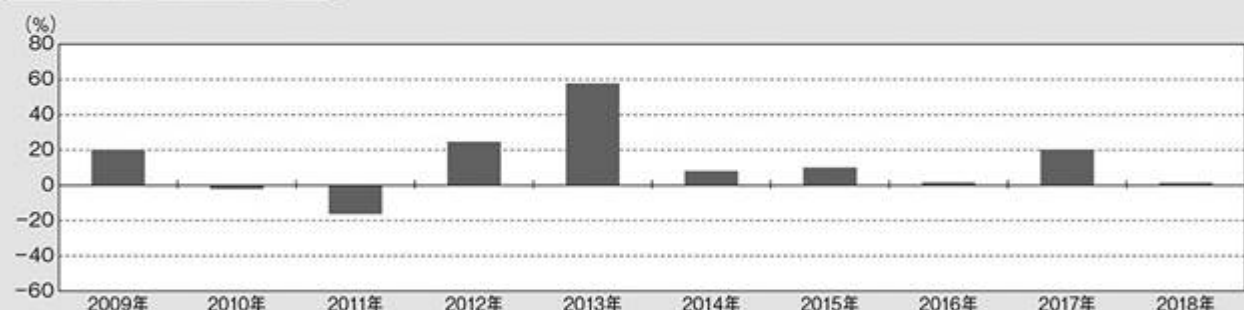
## ■組入上位10業種■

(アムンディ・日経225オープンマザーファンド)

	業種	比率(%)
1	電気機器	20.29
2	小売業	10.88
3	情報・通信業	10.27
4	化学	8.83
5	医薬品	7.05
6	輸送用機器	6.42
7	機械	5.67
8	食料品	4.58
9	サービス業	3.97
10	精密機器	2.86

※比率はマザーファンドの現物株式組入れに対する評価額比です。

## 年間収益率の推移



※年間収益率は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。  
※2018年は年初から1月末までの騰落率を表示しています。

※上記の運用実績は、過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。  
※運用実績等については、表紙に記載の委託会社ホームページにおいて閲覧することができます。

### 第3【ファンドの経理状況】

#### 1【財務諸表】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況 1 財務諸表」に以下の全文が追加されます。以下は、追加される内容のみ記載しております。

1. 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条の3及び第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。  
なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第19期中間計算期間(平成29年7月12日から平成30年1月11日まで)の中間財務諸表について、P w C あらた有限責任監査法人により中間監査を受けております。

## 中間財務諸表

## りそな・日経225オープン

## (1) 【中間貸借対照表】

(単位：円)

	第18期計算期間末 (平成29年7月11日)	第19期中間計算期間末 (平成30年1月11日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	227,832,014	242,021,438
親投資信託受益証券	30,104,580,852	25,438,106,020
未収入金	38,200,000	499,500,000
流動資産合計	30,370,612,866	26,179,627,458
資産合計		
	30,370,612,866	26,179,627,458
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払解約金	83,308,743	617,868,072
未払受託者報酬	22,198,678	15,238,306
未払委託者報酬	144,291,321	99,048,911
未払利息	561	663
その他未払費用	6,278,849	2,831,087
流動負債合計	256,078,152	734,987,039
負債合計		
	256,078,152	734,987,039
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	23,684,451,389	16,969,348,704
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金( )	6,430,083,325	8,475,291,715
(分配準備積立金)	3,360,140,290	1,670,889,511
元本等合計	30,114,534,714	25,444,640,419
純資産合計		
	30,114,534,714	25,444,640,419
負債純資産合計		
	30,370,612,866	26,179,627,458

## (2) 【中間損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第18期中間計算期間		第19期中間計算期間	
	自	平成28年7月12日 至 平成29年1月11日	自	平成29年7月12日 至 平成30年1月11日
<b>営業収益</b>				
有価証券売買等損益		14,281,086,777		4,643,035,033
営業収益合計		14,281,086,777		4,643,035,033
<b>営業費用</b>				
支払利息		122,348		79,935
受託者報酬		34,595,316		15,238,306
委託者報酬		224,869,493		99,048,911
その他費用		5,596,009		2,832,129
営業費用合計		265,183,166		117,199,281
営業利益又は営業損失( )		14,015,903,611		4,525,835,752
経常利益又は経常損失( )		14,015,903,611		4,525,835,752
中間純利益又は中間純損失( )		14,015,903,611		4,525,835,752
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額( )		5,361,082,892		970,547,831
期首剰余金又は期首欠損金( )		1,455,935,707		6,430,083,325
剰余金増加額又は欠損金減少額		1,301,612,716		2,404,171,654
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		537,847,786		-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		763,764,930		2,404,171,654
剰余金減少額又は欠損金増加額		-		3,914,251,185
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		3,914,251,185
中間剰余金又は中間欠損金( )		8,500,497,728		8,475,291,715

## ( 3 ) 【中間注記表】

## ( 重要な会計方針に係る事項に関する注記 )

有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
-----------------	--

## ( 中間貸借対照表に関する注記 )

項目	第18期計算期間末 (平成29年7月11日)	第19期中間計算期間末 (平成30年1月11日)
1. 期首元本額	67,881,504,193円	23,684,451,389円
期中追加設定元本額	18,284,216,603円	7,804,834,320円
期中一部解約元本額	62,481,269,407円	14,519,937,005円
2. 受益権の総数	23,684,451,389口	16,969,348,704口

## ( 中間損益及び剰余金計算書に関する注記 )

第18期中間計算期間 自平成28年7月12日 至平成29年1月11日	第19期中間計算期間 自平成29年7月12日 至平成30年1月11日
該当事項はありません。	同左

## （金融商品に関する注記）

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	第18期計算期間末 （平成29年7月11日）	第19期中間計算期間末 （平成30年1月11日）
1. 中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	時価で計上しているためその差額はありませぬ。	同左
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	<p>（1）有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p> <p>（2）有価証券 時価の算定方法は、「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。また、有価証券に関する注記事項については、該当事項はありません。</p> <p>（3）デリバティブ取引 該当事項はありません。</p>	<p>（1）有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左</p> <p>（2）有価証券 同左</p> <p>（3）デリバティブ取引 同左</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。</p>	同左

## （有価証券に関する注記）

第19期中間計算期間末（平成30年1月11日）

該当事項はありません。

## （デリバティブ取引等に関する注記）

第18期計算期間末（平成29年7月11日）

該当事項はありません。

第19期中間計算期間末（平成30年1月11日）

該当事項はありません。

## (1口当たり情報に関する注記)

	第18期計算期間末 (平成29年7月11日)	第19期中間計算期間末 (平成30年1月11日)
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.2715円 (12,715円)	1.4994円 (14,994円)



## （参考情報）

当ファンドは、「アムンディ・日経225オープンマザーファンド」の受益証券を主要投資対象としており、中間貸借対照表の資産の部に計上された親投資信託受益証券は、同親投資信託の受益証券です。なお、同親投資信託の状況は以下の通りです。

## 「アムンディ・日経225オープンマザーファンド」の状況

なお、以下に記載した情報は監査の対象外であります。

## （1）貸借対照表

（単位：円）

	（平成29年7月11日）	（平成30年1月11日）
資産の部		
流動資産		
金銭信託	392,012	224,682
コール・ローン	1,584,776,606	986,880,488
株式	45,679,882,980	34,505,781,840
派生商品評価勘定	13,306,170	
未収入金	136,517	5,142,060,795
未収配当金	60,456,000	57,472,000
差入委託証拠金	54,780,000	34,320,000
流動資産合計	47,393,730,285	40,726,739,805
資産合計	47,393,730,285	40,726,739,805
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定		6,293,906
前受金	7,007,460	1,407,160
未払解約金	61,370,000	5,015,000,000
未払利息	3,907	2,703
流動負債合計	68,381,367	5,022,703,769
負債合計	68,381,367	5,022,703,769
純資産の部		
元本等		
元本	32,090,318,087	20,441,932,805
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	15,235,030,831	15,262,103,231
元本等合計	47,325,348,918	35,704,036,036
純資産合計	47,325,348,918	35,704,036,036

負債純資産合計	47,393,730,285	40,726,739,805
---------	----------------	----------------

## ( 2 ) 注記表

## ( 重要な会計方針に係る事項に関する注記 )

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所等における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、または金融商品取引業者から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	先物取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として計算期間末日（本報告書開示対象ファンドの中間期末日をいいます）に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は、最終相場によっております。
3. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、権利落ち日において、その金額が確定している場合には当該金額、いまだ確定していない場合には入金時に計上しております。

## ( 貸借対照表に関する注記 )

項目	(平成29年7月11日)	(平成30年1月11日)
1. 本報告書開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額	87,416,908,225円	32,090,318,087円
同期中における追加設定元本額	11,783,344,375円	5,027,221,652円
同期中における一部解約元本額	67,109,934,513円	16,675,606,934円
同中間期末における元本の内訳		
りそな・日経225オープン	20,412,653,141円	14,564,357,048円
アムンディ・日経平均オープン	6,161,188,770円	3,641,687,382円
アムンディ・日経225インデックス・オープン（適格機関投資家専用）	5,390,170,927円	2,114,541,121円
りそな・日経225オープンVA（適格機関投資家専用）	126,305,249円	121,347,254円
合計	32,090,318,087円	20,441,932,805円
2. 受益権の総数	32,090,318,087口	20,441,932,805口

## （金融商品に関する注記）

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	（平成29年7月11日）	（平成30年1月11日）
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	<p>（1）有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p> <p>（2）有価証券 時価の算定方法は、「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。また、有価証券に関する注記事項については、該当事項はありません。</p> <p>（3）デリバティブ取引 デリバティブ取引に関する注記事項については、「（デリバティブ取引等に関する注記）」に記載しております。</p>	<p>（1）有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左</p> <p>（2）有価証券 同左</p> <p>（3）デリバティブ取引 同左</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	当ファンドに投資する投資信託受益証券の「（3）中間注記表（金融商品に関する注記）金融商品の時価等に関する事項」に記載しております。	同左

## （有価証券に関する注記）

（平成30年1月11日）

該当事項はありません。

## （デリバティブ取引等に関する注記）

## 株式関連

（平成29年7月11日）

区分	種類	契約額等（円）		時価 （円）	評価損益 （円）
			うち1年超		
市場取引	株価指数先物取引 買建				
	日経平均株価指数先物	1,621,250,180		1,634,580,000	13,329,820
	合計	1,621,250,180		1,634,580,000	13,329,820

（平成30年1月11日）

区分	種類	契約額等（円）		時価 （円）	評価損益 （円）
			うち1年超		
市場取引	株価指数先物取引 買建				
	日経平均株価指数先物	1,188,779,780		1,182,500,000	6,279,780
	合計	1,188,779,780		1,182,500,000	6,279,780

## （注）時価の算定方法

- 先物取引の時価については、以下のように評価しております。  
原則として計算期間末日（本報告書における開示対象ファンドの中間期末日をいいます。以下同じ）に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。  
このような時価が発表されていない場合には、計算期間末日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。
- 先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。
- 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。
- 契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

## （1口当たり情報に関する注記）

	（平成29年7月11日）	（平成30年1月11日）
1口当たり純資産額	1.4748円	1.7466円
（1万口当たり純資産額）	（14,748円）	（17,466円）

## 2【ファンドの現況】

## 【純資産額計算書】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況 2 ファンドの現況 純資産額計算書」につきましては以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

平成30年1月末日現在

資産総額	26,348,629,133円
負債総額	220,159,736円
純資産総額（ - ）	26,128,469,397円
発行済口数	17,893,173,919口
1口当たり純資産額（ / ）	1.4602円
（1万口当たり純資産額）	（14,602円）

<参考情報>

「アムンディ・日経225オープンマザーファンド」

平成30年1月末日現在

資産総額	40,155,177,848円
負債総額	2,667,589,614円
純資産総額（ - ）	37,487,588,234円
発行済口数	22,029,027,102口
1口当たり純資産額（ / ）	1.7017円
（1万口当たり純資産額）	（17,017円）

**第三部【委託会社等の情報】****第1【委託会社等の概況】****2【事業の内容及び営業の概況】**

## 営業の概況

原届出書の「第三部 委託会社等の情報 第1 委託会社等の概況 2 事業の内容及び営業の概況 営業の概況」につきましては以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

平成30年1月末日現在、委託会社の運用する投資信託の本数、純資産額の合計額は以下のとおりです。

種 類	本 数	純 資 産 (百 万 円)
単位型株式投資信託	2	18,068
追加型株式投資信託	186	2,474,176
合 計	188	2,492,244

### 3【委託会社等の経理状況】

原届出書の「第三部 委託会社等の情報 第1 委託会社等の概況 3 委託会社等の経理状況」につきましては以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

(1)委託会社であるアムンディ・ジャパン株式会社(以下「当社」という)の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。

(2)財務諸表の金額については、千円未満の端数を四捨五入して記載しております。

(3)当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第37期事業年度(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により監査を受けております。

(4)当社は、平成29年9月29日開催の臨時株主総会において、定款の一部変更を決議し、決算日を3月31日から12月31日に変更しております。よって、当事業年度は平成29年4月1日から平成29年12月31日までの9か月となっています。



## (1)【貸借対照表】

(単位：千円)

	第36期 (平成29年3月31日)	第37期 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	12,544,276	9,010,675
前払費用	97,086	67,557
未収入金	9,400	12,500
未収委託者報酬	1,587,689	2,801,064
未収運用受託報酬	*1 1,203,426	*1 1,505,200
未収投資助言報酬	4,776	4,663
未収収益	*1 363,037	*1 377,628
繰延税金資産	131,768	314,900
立替金	103,767	96,577
その他	76	69
流動資産合計	16,045,302	14,190,834
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	*2 97,451	*2 93,483
器具備品(純額)	*2 125,520	*2 103,175
有形固定資産合計	222,970	196,658
無形固定資産		
ソフトウェア	39,077	38,852
ソフトウェア仮勘定	-	4,806
商標権	1,040	845
無形固定資産合計	40,117	44,503
投資その他の資産		
金銭の信託	526,222	309,607
投資有価証券	131,134	126,784
関係会社株式	84,560	84,560
長期未収入金	1,000	1,000
長期差入保証金	212,829	218,142
ゴルフ会員権	60	60
前払年金費用	-	8,553
貸倒引当金	1,000	1,000
投資その他の資産合計	954,804	747,707
固定資産合計	1,217,892	988,868
資産合計	17,263,193	15,179,702

(単位：千円)

	第36期 (平成29年3月31日)	第37期 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
リース債務	2,319	991
預り金	371,334	1,259,125
未払償還金	-	686
未払手数料	846,821	1,363,261
関係会社未払金	219,309	243,647
その他未払金	*1 136,434	*1 152,555
未払費用	351,670	412,172
未払法人税等	50,178	163,910
未払消費税等	14,578	103,501
賞与引当金	157,489	672,011
役員賞与引当金	48,643	116,143
<b>流動負債合計</b>	<b>2,198,774</b>	<b>4,488,002</b>
<b>固定負債</b>		
リース債務	4,138	-
繰延税金負債	5,674	11,885
退職給付引当金	20,397	11,320
賞与引当金	28,132	26,132
役員賞与引当金	54,701	54,701
資産除去債務	59,677	60,483
<b>固定負債合計</b>	<b>172,718</b>	<b>164,521</b>
<b>負債合計</b>	<b>2,371,492</b>	<b>4,652,523</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,200,000	1,200,000
資本剰余金		
資本準備金	1,076,268	1,076,268
その他資本剰余金	1,542,567	1,542,567
<b>資本剰余金合計</b>	<b>2,618,835</b>	<b>2,618,835</b>
利益剰余金		
利益準備金	110,093	110,093
その他利益剰余金	10,962,094	6,592,764
別途積立金	1,600,000	1,600,000
繰越利益剰余金	9,362,094	4,992,764
<b>利益剰余金合計</b>	<b>11,072,186</b>	<b>6,702,856</b>
<b>株主資本合計</b>	<b>14,891,021</b>	<b>10,521,691</b>
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	679	5,488
<b>評価・換算差額等合計</b>	<b>679</b>	<b>5,488</b>
<b>純資産合計</b>	<b>14,891,701</b>	<b>10,527,179</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>17,263,193</b>	<b>15,179,702</b>

## （ 2 ） 【 損益計算書 】

（ 単位：千円 ）

	第36期 （自平成28年4月 1日 至平成29年3月31日）	第37期 （自平成29年 4月 1日 至平成29年12月31日）
営業収益		
委託者報酬	11,647,640	9,227,981
運用受託報酬	2,870,732	2,140,210
投資助言報酬	10,912	8,461
その他営業収益	783,587	773,256
営業収益合計	15,312,872	12,149,908
営業費用		
支払手数料	6,805,998	5,427,725
広告宣伝費	77,312	63,731
調査費	689,756	500,592
委託調査費	428,553	343,347
委託計算費	19,070	14,801
通信費	52,255	38,276
印刷費	107,779	68,664
協会費	30,713	21,264
営業費用合計	8,211,436	6,478,400
一般管理費		
役員報酬	211,460	150,777
給料・手当	2,347,536	1,845,556
賞与	348,556	-
役員賞与	35,423	6,596
交際費	21,581	11,133
旅費交通費	58,611	64,237
租税公課	106,546	85,622
不動産賃借料	190,183	141,367
賞与引当金繰入	125,317	512,522
役員賞与引当金繰入	63,385	67,500
退職給付費用	314,182	95,770
固定資産減価償却費	45,884	39,898
商標権償却	260	195
福利厚生費	349,807	226,612
諸経費	277,255	174,049
一般管理費合計	4,495,985	3,421,834
営業利益	2,605,451	2,249,675
営業外収益		
有価証券利息	283	191
有価証券売却益	-	5,282
受取利息	254	144
為替差益	-	81,187

雑収入	9,723	1,290
営業外収益合計	10,261	88,093
営業外費用		
有価証券売却損	26,665	-
特別退職金	-	7,058
支払利息	547	410
為替差損	7,892	-
雑損失	1,063	4,457
営業外費用合計	36,167	11,926
経常利益	2,579,545	2,325,843
特別損失		
固定資産除却損	1,158	-
特別損失合計	1,158	-
税引前当期純利益	2,578,387	2,325,843
法人税、住民税及び事業税	751,308	919,528
法人税等調整額	77,060	179,042
法人税等合計	828,368	740,485
当期純利益	1,750,019	1,585,357

## ( 3 ) 【株主資本等変動計算書】

第36期（自平成28年4月 1日 至平成29年3月31日）

(単位:千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	1,200,000	1,076,268	1,342,567	2,418,835
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
合併による増加			200,000	200,000
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)				
当期変動額合計			200,000	200,000
当期末残高	1,200,000	1,076,268	1,542,567	2,618,835

	株主資本				
	利益準備金	利益剰余金			株主資本 合計
		その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
別途積立金		繰越利益 剰余金			
当期首残高	110,093	1,600,000	7,031,177	8,741,269	12,360,104
当期変動額					
剰余金の配当			350,000	350,000	350,000
当期純利益			1,750,019	1,750,019	1,750,019
合併による増加			930,898	930,898	1,130,898
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)					
当期変動額合計			2,330,917	2,330,917	2,530,917
当期末残高	110,093	1,600,000	9,362,094	11,072,186	14,891,021

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	2,546	2,546	12,357,559
当期変動額			
剰余金の配当			350,000
当期純利益			1,750,019
合併による増加			1,130,898
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	3,225	3,225	3,225
当期変動額合計	3,225	3,225	2,534,142
当期末残高	679	679	14,891,701

第37期（自平成29年4月 1日 至平成29年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	1,200,000	1,076,268	1,542,567	2,618,835
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目の当期変動額 （純額）				
当期変動額合計				
当期末残高	1,200,000	1,076,268	1,542,567	2,618,835

	株主資本				
	利益剰余金				株主資本 合計
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
		別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	110,093	1,600,000	9,362,094	11,072,186	14,891,021
当期変動額					
剰余金の配当			5,954,687	5,954,687	5,954,687
当期純利益			1,585,357	1,585,357	1,585,357
株主資本以外の項目の当期変動額 （純額）					
当期変動額合計			4,369,330	4,369,330	4,369,330
当期末残高	110,093	1,600,000	4,992,764	6,702,856	10,521,691

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	679	679	14,891,701
当期変動額			
剰余金の配当			5,954,687
当期純利益			1,585,357
株主資本以外の項目の当期変動額 （純額）	4,808	4,808	4,808
当期変動額合計	4,808	4,808	4,364,522
当期末残高	5,488	5,488	10,527,179

## 注記事項

### （重要な会計方針）

#### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

##### (1)関係会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

##### (2)その他有価証券

###### 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

###### 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

#### 2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。（評価差額は全部純資産直入法により処理しております。）

#### 3. 固定資産の減価償却の方法

##### (1)有形固定資産(リース資産を除く)

定額法により償却しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	15年～18年
器具備品	4年～15年

##### (2)無形固定資産

定額法により償却しております。

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

##### (3)リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法により償却しております。

#### 4. 引当金の計上基準

##### (1)貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

##### (2)退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務（直近の年金財政計算上の数理債務をもって退職給付債務とする簡便法）及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

## (3)賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に帰属する額を計上しております。なお、ある条件を満たした者に対して、一定金額を繰延支給する制度が導入されております。当該賞与は数年間に分割支給されるため、1年を超えて支払われる部分については固定負債に計上しております。

## (4)役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に帰属する額を計上しております。なお、ある条件を満たした者に対して、一定金額を繰延支給する制度が導入されております。当該賞与は数年間に分割支給されるため、1年を超えて支払われる部分については固定負債に計上しております。

## 5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

## (1)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

## (2)連結納税制度の適用

アムンディ・ジャパンホールディング株式会社を連結納税親会社とする連結納税制度を適用しております。

## (貸借対照表関係)

\*1各勘定科目に含まれる関係会社に対するものは以下のとおりであります。

	第36期 (平成29年3月31日)	第37期 (平成29年12月31日)
未収運用受託報酬	62,115 千円	85,856 千円
未収収益	182,290 千円	152,512 千円
その他未払金	38,126 千円	92,102 千円

\*2有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。

	第36期 (平成29年3月31日)	第37期 (平成29年12月31日)
建物	81,963 千円	89,844 千円
器具備品	188,921 千円	208,275 千円

## (損益計算書関係)

第36期（自平成28年4月 1日 至平成29年3月31日）

該当事項はありません

第37期（自平成29年4月 1日 至平成29年12月31日）

該当事項はありません



## （株主資本等変動計算書関係）

第36期（自平成28年4月 1日 至平成29年3月31日）

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 (千株)	増加 (千株)	減少 (千株)	当事業年度末 (千株)
普通株式	2,400	-	-	2,400

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

平成28年6月15日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

## ・普通株式の配当に関する事項

(イ)	配当金の総額	350,000千円
(ロ)	1株当たり配当額	145.83円
(ハ)	基準日	平成28年3月31日
(ニ)	効力発生日	平成28年6月15日

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成29年6月23日開催の定時株主総会において、次の議案を決議することを予定しております。

## ・普通株式の配当に関する事項

(イ)	配当金の総額	300,000千円
(ロ)	配当の原資	利益剰余金
(ハ)	1株当たり配当額	125.00円
(ニ)	基準日	平成29年3月31日
(ホ)	効力発生日	平成29年6月23日

第37期（自平成29年4月 1日 至平成29年12月31日）

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 (千株)	増加 (千株)	減少 (千株)	当事業年度末 (千株)
普通株式	2,400	-	-	2,400

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

平成29年6月23日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

## ・普通株式の配当に関する事項

(イ)	配当金の総額	300,000千円
(ロ)	1株当たり配当額	125.00円
(ハ)	基準日	平成29年3月31日
(ニ)	効力発生日	平成29年6月23日

平成29年12月13日の臨時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ)	配当金の総額	5,654,687千円
(ロ)	1株当たり配当額	2,356.12円
(ハ)	基準日	平成29年3月31日
(ニ)	効力発生日	平成29年12月13日

(2)基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの  
なし

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1)リース資産の内容

有形固定資産  
器具備品

(2)リース資産の減価償却方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法により償却しております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社は、資金の調達については、銀行等金融機関から借入はありません。

また、当社は、投資信託の運用を業として行っており、当社が運用する投資信託の商品性維持等を目的として、当該投資信託を投資有価証券として、あるいは特定金銭信託を通じ保有しております。

特定金銭信託を通じ行っているデリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2)金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、相手先の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、相手先ごとの残高管理を行うとともに、延滞債権が発生した場合には管理部門役職者が顧客と直接交渉する体制としております。また、特定金銭信託を通じ保有している投資信託につきましては、為替変動リスクや価格変動リスクに晒されておりますが、その大部分については為替予約、株価指数先物、債券先物、スワップ取引などのデリバティブ取引によりヘッジしております。未払手数料は、支払期日に支払いを実行できなくなる流動性リスクに晒されておりますが、手許流動性を維持することにより管理しております。

当社は、事業活動において存在するリスクを的確に把握し、リスク管理を適切に実行すべく、リスク管理基本規程を設けております。有価証券を含む投資商品の投資については「シードマネーガイドライン」及び「資本剰余金及び営業キャッシュに係る投資ガイドライン」の規程に基づき決定され、担当部署において管理しております。

## (3)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）参照）。

第36期(平成29年3月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金・預金	12,544,276	12,544,276	-
(2) 未収委託者報酬	1,587,689	1,587,689	-
(3) 未収運用受託報酬	1,203,426	1,203,426	-
(4) 金銭の信託	526,222	526,222	-
(5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	131,134	131,134	-
資産計	15,992,746	15,992,746	-
(1) 未払手数料	846,821	846,821	-
負債計	846,821	846,821	-

第37期(平成29年12月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金・預金	9,010,675	9,010,675	-
(2) 未収委託者報酬	2,801,064	2,801,064	-
(3) 未収運用受託報酬	1,505,200	1,505,200	-
(4) 金銭の信託	309,607	309,607	-
(5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	126,784	126,784	-
資産計	13,753,331	13,753,331	-
(1) 未払手数料	1,363,261	1,363,261	-
負債計	1,363,261	1,363,261	-

## (注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

## 資産

## (1)現金・預金、(2)未収委託者報酬及び(3)未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (4)金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。これらの時価について投資信託については基準価格、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (5)有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、投資信託受益証券は、証券会社等からの時価情報によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項（有価証券関係）をご参照下さい。

## 負債

## (1)未払手数料

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

下記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。関係会社株式は、当社の100%子会社であるワイアイシーエム（デラウエア）社の株式です。

（単位：千円）

区分	第36期(平成29年3月31日)	第37期(平成29年12月31日)
	貸借対照表計上額	貸借対照表計上額
関係会社株式	84,560	84,560

## (注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

第36期(平成29年3月31日)

	1年以内	1年超	5年超	10年超
	(千円)	5年以内 (千円)	10年以内 (千円)	(千円)
現金・預金	12,544,276	-	-	-
未収委託者報酬	1,587,689	-	-	-
未収運用受託報酬	1,203,426	-	-	-
合計	15,335,391	-	-	-

## 第37期(平成29年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金・預金	9,010,675	-	-	-
未収委託者報酬	2,801,064	-	-	-
未収運用受託報酬	1,505,200	-	-	-
合計	13,316,940	-	-	-

## (有価証券関係)

## 1. 満期保有目的の債券

第36期(平成29年3月31日)

該当事項はありません。

第37期(平成29年12月31日)

該当事項はありません。

## 2. 子会社株式及び関連会社株式

関係会社株式（当事業年度の貸借対照表計上額 84,560千円、前事業年度の貸借対照表計上額 84,560千円）は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載してありません。

## 3. その他有価証券

第36期(平成29年3月31日)

区分	種類	取得原価 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他(注)	111,191	113,553	2,362
	小計	111,191	113,553	2,362
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他(注)	545,185	543,802	1,383
	小計	545,185	543,802	1,383
合計		656,376	657,355	979

(注) 投資信託受益証券及び金銭の信託であります。

## 第37期(平成29年12月31日)

区分	種類	取得原価 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他(注)	418,157	426,131	7,973
	小計	418,157	426,131	7,973
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他(注)	10,324	10,260	64
	小計	10,324	10,260	64
合計		428,481	436,391	7,909

(注) 投資信託受益証券及び金銭の信託であります。

## 4. 事業年度中に売却した満期保有目的の債券

第36期(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)

該当事項はありません。

第37期(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

該当事項はありません。

## 5. 事業年度中に売却したその他有価証券

第36期(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
金銭の信託	2,859,547	-	29,195
投資信託	24,147	4,829	2,299

第37期(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
金銭の信託	222,937	10,327	6,299
投資信託	12,161	1,257	3

(退職給付関係)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。確定給付企業年金制度(積立型制度であります。また、複数事業主制度であります。年金資産の額は合理的に算定しています。)では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。退職一時金制度(非積立型制度であります。)では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

なお、当社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

## 2. 簡便法を適用した確定給付制度

### (1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)	
	第36期 (自平成28年4月 1日 至平成29年3月31日)	第37期 (自平成29年 4月 1日 至平成29年12月31日)
退職給付引当金の期首残高	27,454	20,397
退職給付費用	273,622	65,050
退職給付の支払額	155,887	-
制度への拠出額	124,792	82,680
退職給付引当金の期末残高	20,397	2,767

### (2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

	(千円)	
	第36期 (平成29年3月31日)	第37期 (平成29年12月31日)
積立型制度の退職給付債務	669,970	669,970
年金資産	659,494	678,524
	10,477	8,553
非積立型制度の退職給付債務	9,920	11,320
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	20,397	2,767
退職給付に係る負債	20,397	11,320
退職給付に係る資産	-	8,553
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	20,397	2,767

### (3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用      前事業年度 273,622千円      当事業年度 65,050千円

## 3. 確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額      前事業年度40,560千円、当事業年度30,720千円であります。

(税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第36期	第37期
	(平成29年3月31日)	(平成29年12月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
未払費用否認額	69,798 千円	83,244 千円
繰延資産償却額	8,511 千円	- 千円
未払事業税	9,706 千円	30,157 千円
賞与引当金等損金算入限度超過額	57,215 千円	215,384 千円
退職給付引当金損金算入限度超過額	6,245 千円	847 千円
減価償却資産	4,574 千円	4,429 千円
資産除去債務	16,863 千円	17,110 千円
未払事業所税	2,852 千円	2,194 千円
その他	9,683 千円	- 千円
繰延税金資産小計	185,447 千円	353,364 千円
評価性引当額	53,679 千円	38,464 千円
繰延税金資産合計	131,768 千円	314,900 千円
<b>繰延税金負債</b>		
繰延資産償却額	- 千円	794 千円
資産除去債務会計基準適用に伴う有形 固定資産計上額	5,374 千円	4,659 千円
その他有価証券評価差額金	300 千円	2,422 千円
その他	- 千円	4,010 千円
繰延税金負債合計	5,674 千円	11,885 千円
繰延税金資産の純額	126,095 千円	303,015 千円

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

## 第36期(平成29年3月31日)

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

## 第37期(平成29年12月31日)

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。



## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

第36期（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税法の一部を改正する等の法律等の一部を改正する法律」（平成28年法律第85号）及び「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための地方税法及び地方交付税法の一部を改正する法律等の一部を改正する法律」（平成28年法律第86号）が平成28年11月18日に国会で成立し、消費税率の10%への引上げ時期が平成29年4月1日から平成31年10月1日に延期されました。

これに伴い、地方法人特別税の廃止及びそれに伴う法人事業税の復元、地方法人税の税率改正、法人住民税法人税割の税率改正の実施時期も平成29年4月1日以後に開始する事業年度から平成31年10月1日以後に開始する事業年度に延期されました。繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率に変更はありません。国税と地方税の間で税率の組替えが発生する結果による繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）及び法人税等調整額への影響は軽微です。

第37期（自平成29年4月1日 至平成29年12月31日）

「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税法の一部を改正する等の法律等の一部を改正する法律」（平成28年法律第85号）及び「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための地方税法及び地方交付税法の一部を改正する法律等の一部を改正する法律」（平成28年法律第86号）が平成28年11月18日に国会で成立し、消費税率の10%への引上げ時期が平成29年4月1日から平成31年10月1日に延期されました。

これに伴い、地方法人特別税の廃止及びそれに伴う法人事業税の復元、地方法人税の税率改正、法人住民税法人税割の税率改正の実施時期も平成29年4月1日以後に開始する事業年度から平成31年10月1日以後に開始する事業年度に延期されました。繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率に変更はありません。国税と地方税の間で税率の組替えが発生する結果による繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）及び法人税等調整額への影響は軽微です。

## (企業結合等関係)

第36期（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

当社は、アムンディ・ジャパン証券株式会社と平成28年2月10日付合併契約に基づき、アムンディ・ジャパン証券株式会社を吸収合併致しました。

## 1. 企業結合の概要

## (1) 合併の目的

機関投資家向け業務の効率化および投資信託事業のラップ等新規市場の開拓

## (2) 合併の日程

合併契約締結日	平成 28年 2月10日
合併効力発生日	平成 28年 4月 1日

## (3) 合併の方法

当社を存続会社とし、アムンディ・ジャパン証券株式会社を吸収合併消滅会社とする無対価による吸収合併方式

## 2. 実施した会計処理の概要

本取引は、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日）に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

第37期（自平成29年4月 1日 至平成29年12月31日）

該当事項はありません。

（資産除去債務関係）

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

### 1. 資産除去債務の概要

当社は、本社オフィスに関して、建物所有者との間で貸室賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復する義務を有しているため、契約上の義務に関して資産除去債務を計上しております。

### 2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を17年間（建物の減価償却期間）と見積り、割引率は当該減価償却期間に見合う国債の流通利回りを使用して、資産除去債務の金額を計算しております。

### 3. 事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

	第36期 （自平成28年4月 1日 至平成29年3月31日）	第37期 （自平成29年 4月 1日 至平成29年12月31日）
期首残高	54,018 千円	59,677 千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	4,605 千円	- 千円
時の経過による調整額	1,054 千円	806 千円
期末残高	59,677 千円	60,483 千円

（セグメント情報等）

（セグメント情報）

第36期（自平成28年4月 1日 至平成29年3月31日）及び第37期（自平成29年4月 1日 至平成29年12月31日）

当社は「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業を行っております。当社は、投資運用業及び投資助言・代理業にこれらの附帯業務を集約した単一セグメントを報告セグメントとしております。従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

## （関連情報）

第36期（自平成28年4月 1日 至平成29年3月31日）

## 1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

（単位：千円）

日本	ルクセンブルグ	その他	合計
12,814,194	1,460,479	1,038,199	15,312,872

(注) 営業収益は顧客の所在地を基準とし、国ごとに分類しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

## (報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報)

該当事項はありません。

## (報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報)

該当事項はありません。

## (報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報)

該当事項はありません。

第37期（自平成29年4月 1日 至平成29年12月31日）

## 1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

（単位：千円）

日本	ルクセンブルグ	その他	合計
10,338,094	1,002,861	808,953	12,149,908

(注) 営業収益は顧客の所在地を基準とし、国ごとに分類しております。

## (2)有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

## (報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報)

該当事項はありません。

## (報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報)

該当事項はありません。

## (報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報)

該当事項はありません。

## (関連当事者情報)

第36期（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

## 1. 関連当事者との取引

## (1)財務諸表提出会社の親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有(被所有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
親会社	アムンディ アセット マネジメント	フランス パリ市	746,263 (千ユーロ)	投資 顧問業	(被所有) 間接100%	なし	投資信託、 投資顧問 契約の再 委託等	運用受託報酬*1	162,171	未収運用受 託報酬	62,115
								情報提供、コン サルティング料 (その他営業収 益)*1	592,523	未収収益	182,290
								委託調査費等の 支払*2	166,729	未払金	38,126
親会社	アムン ディ・ジャ パンホール ディング株 式会社	東京都 千代田区	5,400,000 (千円)	有価証券 の保有	(被所有) 直接100%	なし	連結納税 親会社	法人税等の支払	219,309	関係会社 未払金	219,309

(注)

## 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

\*1各報酬等について、当該各契約に基づいて決定しております。

\*2委託調査費等の支払については、ファンドの運用資産の割合に応じた一定の比率により決定しております。

## 2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

## (2)兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有(被所有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の内兼任等	事業上の関係				
兄弟会社	アムンディ・ルクセンブルグ・エス・エー	ルクセンブルグ	6,805 (千ユーロ)	投資顧問業	なし	なし	運用再委託	運用受託報酬*1	1,027,237	未収運用受託報酬	394,554
								委託者報酬*1	96,824	未収委託者報酬	96,824
								投資助言報酬*1	6,336	未収投資助言報酬	3,338

(注)

## 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

\*1各報酬等について、当該各契約に基づいて決定しております。

## 2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

## 2. 親会社に関する注記

## 親会社情報

アムンディ・ジャパンホールディング株式会社（非上場）

アムンディ アセットマネジメント（非上場）

アムンディ（ユーロネクスト パリに上場）

クレディ・アグリコル・エス・エー（ユーロネクスト パリに上場）

第37期（自平成29年4月 1日 至平成29年12月31日）

## 1. 関連当事者との取引

## (1)財務諸表提出会社の親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有(被所有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
親会社	アムンディ アセットマネジメント	フランス パリ市	1,086,263 (千ユーロ)	投資 顧問業	(被所有) 間接100%	なし	投資信託、 投資顧問 契約の再 委託等	情報提供、コン サルティング料 (その他営業収 益) *1	423,995	未収収益	152,512

(注)

## 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

\*1各報酬等について、当該各契約に基づいて決定しております。

## 2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

## (2)兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有(被所有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
兄弟会社	アムン ディ・ルク センブル グ・エス・ エー	ルクセン ブルグ	6,805 (千ユーロ)	投資 顧問業	なし	なし	運用再委託	運用受託報酬*1	646,446	受託報酬 未収運用	371,129

(注)

## 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

\*1各報酬等について、当該各契約に基づいて決定しております。

## 2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

## 2. 親会社に関する注記

## 親会社情報

アムンディ・ジャパンホールディング株式会社（非上場）

アムンディ アセットマネジメント（非上場）

アムンディ（ユーロネクスト パリに上場）

クレディ・アグリコル・エス・エー（ユーロネクスト パリに上場）

## （1株当たり情報）

	第36期 （自平成28年4月 1日 至平成29年3月31日）	第37期 （自平成29年4月 1日 至平成29年12月31日）
1株当たり純資産額	6,204.88 円	4,386.32 円
1株当たり当期純利益金額	729.17 円	660.57 円

なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	第36期 （自平成28年4月 1日 至平成29年3月31日）	第37期 （自平成29年4月 1日 至平成29年12月31日）
当期純利益（千円）	1,750,019	1,585,357
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純利益（千円）	1,750,019	1,585,357
期中平均株式数（千株）	2,400	2,400

## （重要な後発事象）

第36期（自平成28年4月 1日 至平成29年3月31日）

該当事項はありません。

第37期（自平成29年4月 1日 至平成29年12月31日）

該当事項はありません。

独立監査人の中間監査報告書

平成30年2月28日

アムンディ・ジャパン株式会社

取締役会御中

PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 鶴田 光夫  
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 久保 直毅  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているりそな・日経225オープンの平成29年7月12日から平成30年1月11日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

**中間財務諸表に対する経営者の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

**監査人の責任**

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

**中間監査意見**

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、りそな・日経225オープンの平成30年1月11日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間(平成29年7月12日から平成30年1月11日まで)の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

**利害関係**

アムンディ・ジャパン株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)



独立監査人の監査報告書

平成30年3月1日

アムンディ・ジャパン株式会社

取締役会 御中

PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 鶴田 光夫
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 久保 直毅

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているアムンディ・ジャパン株式会社の平成29年4月1日から平成29年12月31日までの第37期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

**財務諸表に対する経営者の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

**監査人の責任**

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

**監査意見**

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アムンディ・ジャパン株式会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

**利害関係**

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。